

掉尾を飾る

染色を始めて五十五年が過ぎました。

個展での発表も百回目を迎えようとしています。

皆様のお陰でここまで来る事ができましたことを

改めて心より感謝申し上げます。

どのようなものにも節目があるように

区切りをつける時が来たのではと感じています。

作品は全て気を抜かず制作してきたつもりですが

未熟なところがいつまでも現れ続けます。

これからも制作を続ける覚悟ではございますが

福井で、一堂に展示発表するのは最後になると思います。

お目もじが叶いますことを心から願い上げつつ…

玉村 咏

玉村 咏 展

EI TAMAMURA EXHIBITION

後援：

福井新聞社、FBC 福井放送、福井テレビ

2025年 5月1日(木) ～ 6日(火)
9:00～17:00 (最終入場 16:30)

福井市美術館 [アートラボふくい]

〒918-8112 福井市下馬3-1111 Tel. 0776・33・2990
<https://www.art.museum.city.fukui.fukui.jp>

入場無料

京都に移り住み独学で染色を習得して五十五年が過ぎました。

西陣にアトリエを構えたお陰で、後年この地でなければならぬ意味に出会います。

発想に苦しみ、創作に悩み、未熟さを嘆いた時

此の地の下に眠る 同様な辛苦を体験した幾万もの先人達が

常に励ましの力を授けてくれました。

彼等がいたからこそ、自作を見つめ直し自問自省することが出来たのです。

先達が研鑽努力したこの地で生涯生きていく決心をした時でもありました。

千五百年以上も前から脈々と続く染織の伝統を正面から受け止め

先人が想像しえなかった表現を模索し続け、現代の真の前衛たるべく

常に新しい創作に向き合う事を、この地から学ばせていただきました。

「伝統と創造」

私達は太古より脈々と受け継がれてきた染織の歴史を識っています。

先人達が長い間模索し、苦悩し、研究し、創作してきたものを見て

私達は感動し、学習し、勉強してきましたのです。

先人達の偽りのない作品を、私達は自らの血としてきたように

後世の人は、現代という時間の中で創られた膨大な作品の中から

必ず自らの心に留まる優れたものを選び取り、手本とし、批判し

創造していくでしょう。

伝統とは常にこのような時の流れを経て確立していくものです。

いつの時代も社会は不要なものを捨て去ることに容赦はしません。

葬り去られるものには必ずそれなりの理由があります。

時を経て色褪せない作品の本質には、必ずその時代の必然があつたように

現代の息吹きを、私はどれだけ作品に込めることができただろうか？

はたしてそれは、時に耐えて輝き続けるだろうか？

様々に苦悶しつつも、ただ手抜きのない心を込めた作品を創るだけです。

本当に良いものは必ず残るという確信を持ち

五百年、千年前の先達に恥じない心で

百年、二百年後の人達に誇れる精神を抱きながら

自分の持てる技術と愛情の全てを注いで創り続けていきたいと思っています。

玉村 咏 展

EI TAMAMURA
EXHIBITION

入場
無料

2025年5月1日(木)～6日(火)

9:00-17:00 (最終入場 16:30)

福井市美術館 [アートラボふくい]

お問い合わせ: アトリエ 倅 TEL.090・3166・2597
eitamamura@ybb.ne.jp



2024年 京都市国際交流会館



玉村 咏 (たまむら・えい)

1947年 福井市生まれ。

染色を独学、1983年 染色工房「アトリエ倅」を設立。

京染めの伝統を受け継ぎながら、染色の新しい表現の可能性を
目指しつつ創作にあたる。

作品は個展を中心に発表し全て一点限りの手描き染色作品。

きもの等の和装以外に、インテリア、タペストリー、屏風、
ファイバーアートの造形作品等、現代に生きる染色作品を制作。

オリジナルな作品づくりのために発想、デザインから最終工程まで
10余りに分かれる工程をすべてアトリエ内で一貫制作する。

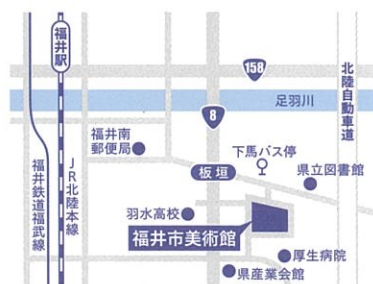
1992年 ローザンヌ国際ビエンナーレ、

1992年、1996年 淡交社ビエンナーレ大賞他、数々の賞を受賞。

作品は、福井新聞社、ホテルニューオータニ等に常設されている。

染色工房 アトリエ倅

〒602-8216 京都市上京区堀川今出川 西陣産業会館
<http://eitamamura.com/>



福井市美術館 アートラボふくい

〒918-8112 福井市下馬3-1111

Tel.0776・33・2990

<https://www.art.museum.city.fukui.fukui.jp>